

令和5年度

# 事業報告書

社会福祉法人 松 楓 会  
特別養護老人ホーム コスモホーム  
指定短期入所生活介護事業所コスモホーム

# 目 次

1. 基本理念	・・・・・・・・P1
2. 事業内容	・・・・・・・・P1
3. 経営計画	・・・・・・・・P1～2
4. 令和5年度重点目標	・・・・・・・・P2～5
(1) 感染症への予防対策と蔓延防止対策の強化	
(2) 自然災害への備えの強化	
(3) 危機管理体制の強化	
(4) 基本5原則の徹底	
(5) 安定した経営基盤と充実したサービスの強化	
(6) お客様とご家族様との信頼関係の強化	
(7) 法人内特養との連携と相互補完の推進	
(8) 組織マネジメントの精度を上げる	
(9) 目標管理体制の徹底と支出の抑制	
(10) 地域住民との積極的な交流	
(11) 働く環境整備と職場風土の醸成	
(12) 積極的な広報活動と情報の開示	
5. 利用者状況	・・・・・・・・P5
6. 利用者サービス	・・・・・・・・P6～8
(1) 食事サービス	
(2) 入浴サービス	
(3) 排泄サービス	
(4) 医療衛生管理	
(5) リハビリテーション	
(6) アクティビティ活動	
7. 地域社会との連携	・・・・・・・・P8
8. 職員関係	・・・・・・・・P9
9. 関連事業	・・・・・・・・P9

# 事業報告書

特別養護老人ホーム コスモホーム

## 1 基本理念

コスモホームに於いては、契約施設として「人が人であり続けられる為のサービスとは何か」に視点を置き、長期滞在型都市型ホテルのサービス提供を目指し積極的に情報開示を行い、ご家族と一体となり選ばれる施設作りを目指して参りました。介護保険制度下に於ける経営の安定、施設サービス及び地域サービスの充実、職員の介護技術の研鑽と研究に努め、利用者サービスに反映させ事業を遂行しました。

## 2 事業内容

介護老人福祉施設 コスモホーム	定員	100名
短期入所生活介護 コスモホーム 併設ベッド8名	空床ベッド	10名

## 3 経営計画

(ア) 基本理念達成に向けて目標の明確化

- ① 長期滞在型都市型ホテルのサービス提供をめざし、明るく快適な空間づくりに努めました。
- ② 利用者へのお声掛けと意思確認からケアを始める事で不安感を軽減して頂けるように努めました。
- ③ 清掃・消毒により清潔な環境づくりと感染症予防に努めました。感染症は発生せず経過しておりましたが、2月中旬に新型コロナウイルスが発生。速やかにゾーニングなどの対応をしましたが、感染力強く又速く罹患者が多数となりました。(利用者:50名、職員11名 計61名が罹患)  
幸いにして重症化される方は殆どいらっしゃらず3月には収束を迎える事が出来ました。
- ④ 利用者・家族のご意向を確認し施設サービス計画・栄養サービス計画・個別機能訓練計画を策定。介護サービスの質の向上に努めました。
- ⑤ 生活相談の他、各種相談窓口を設置し幅広く対応できる体制を整備し、日頃より相談しやすい雰囲気づくりに努めました。
- ⑥ マイナンバーの厳格な管理と個人情報の保護に努めました。
- ⑦ 町内会との災害時相互応援協定による合同防災訓練を実施。交流を深め施設が持つ防災機能を改めて紹介し地域の福祉施設の役割を示すことができました。
- ⑧ 協力病院の他、市内の医療機関はもちろんの事、近隣地域の医療機関との連携も深められるよう南多摩医療圏病院管理研究会に加入、可能な限り研修にも参加をして関係づくりにも繋げました。

(イ) 人材の確保・育成と能力開発

人材の確保については直接応募が減る中、紹介会社やWEB 求人サイトを利用した採用活動を行いました。また、特定技能外国人の採用を進めミャンマーから4名の介護職員を受け入れることができました。その結果、期中常勤職員13名、非常勤職員4名の採用となり派遣職員は2名継続して受け入れをしています。研修については、職員の能力向上を図るため WEB 研修や机上研修を受講する機会を設けました。

(ウ) 経営力向上の効率化について

施設介護収入は、年度初め78名の在籍から始まり30名のご利用者様の入所を進めましたが、2月中旬に新型コロナウイルスのクラスターが生じた事により新規入所、短期入所の受け入れを休止せざるを得なくなりました。途中でコロナ外でも体調を崩し入院される事や永眠される方がいらっしゃり最終的に大幅に収入が減少しました。年間平均稼働率は80.8%になります。支出につきましては、物価高騰や修繕費の増加、また、水道光熱費や物価の高騰により経費が増えております。次年度は、ますます物価高騰が続く見込みなので、稼働率の改善と引き続き経費削減に努め少しでも赤字が減らせるようにしていきます。

## 4 令和5年度重点目標

(ア) 感染症への予防対策と蔓延防止対策の強化

感染症対策委員会を筆頭に、各種感染症の動向を把握すべく感染症予防の対策を講じると共に注意喚起の呼びかけをしました。新型コロナウイルスが5類に移行された後も、清掃・消毒・換気と基本の感染症予防対策を継続しましたご面会については新型コロナウイルスが5類に移行後、予約制で直接面会を再開。ビデオ通話も継続し対応しております。感染症発症時は休止させていただきましたが可能な範囲でガラス越しのご面会に対応しました。計画に基づき感染症に関する業務継続計画の見直し研修を実施しました。感染症の動向により会議は LINEWorks を活用して開催しました。

(イ) 自然災害への備えの強化

- ① 早期の避難ができるよう、地震、台風、大雪等の気象情報収集に努めました。
- ② 非常食、保存水、毛布等の災害時備蓄品確保を行いました。
- ③ 業者による設備点検の他、防災頭巾等の防災用品に不足・劣化の有無を自主点検により確認いたしました。
- ④ 過去の大震災や大型台風、大雪時の経験を生かし、気象情報を得た際には土嚢の設置、物品の飛散防止、除雪機の準備等を行いました。
- ⑤ 自助・共助・公助を念頭に置き、毎月の防災訓練を実施。訓練は感染症予防を考慮し、集団とならないよう書面での情報共有を生かして実施しました。

(ウ) 危機管理体制の強化

① 防災対策

- (イ) 大型台風の直撃や大雪はありませんでしたが、気象情報を収集し土嚢の設置や物品の落下や飛散に及ばないよう固定、除雪機を始めとした除雪用具を準備し、思わぬ被害を想定し備えました。

- (ロ) 施設は人命を預かる場として災害に対し迅速な対応ができるよう、年間を通じ防災訓練、看護師による救命講習及び教育を実施しました。災害時に対する正しい知識と行動力の向上が図ることが出来ました。
- ② リスクマネジメント
  - (イ) リスク回避と介護技術向上を目的に、介護技術 OJT、職員倫理や、緊急時の救命救急などについてのフォローアップ研修を行い、職員の意識改革に取り組み事故発生時の的確な対応と危機管理体制の確立に努めました。事故報告(12件)ヒヤリハット(54件)の分析と検証を行い、再発防止に努めました。
  - (ロ) 利用者様の主治医とご家族様の連携を図る為に、インフォームドコンセントを積極的に行いました。
  - (ハ) 利用者様の個別ニーズ・ご家族様の意向を把握し、施設サービスに満足して頂け苦情の発生を防ぐべくアンケート調査を行い、結果をサービスに反映させました。
  - (ニ) 苦情相談窓口及び生活・栄養・医療についての相談日を週 1 回設置し、活用して頂くと共に、ご家族様へのサービスに対するアンケートを実施、利用者様用の投書箱を各階に設置し、苦情トラブルを未然に防ぐ様努めました。
  - (ホ) 苦情相談に対し解決に向け都度敏速での的確な対応と記録の整備を行い、透明性を図り利用者様・ご家族様から信頼されるシステムの構築に努めました。今年度は苦情及び解決困難な相談事案はありませんでした。上記の他にも、生活に関する事や小遣い銭の使いみち、病状等で今後の心配事について利用者様・ご家族様からの相談もあり、対応を随時行いました。
- ③ 情報開示と個人情報保護
  - (イ) 介護保険法による介護サービス情報開示をはじめ、広報誌(PINEMAPLE)を発行し財務情報・利用者様の日々の生活状況等を利用者様へ配布と共にご家族様へ送付、また、施設内への掲示も同時に行い開示しました。
  - (ロ) ホームページを更新し、常に新しい情報を発信し、発行広報誌もダウンロードが出来る形で開示しました。
  - (ハ) 個人情報(及び特定個人情報)については、松楓会個人情報に関する諸規定を遵守し保護に努めました。
- (エ) 基本5原則の徹底
 

以下の5原則を新任職員研修から取り入れて、常日頃職員が相互に指示・助言を実施してまいりました。

  - ① “笑顔と挨拶”の実践と職場マナーの徹底  
(笑顔・明るい挨拶・福祉施設職員らしい適切な言葉使い・清潔な身だしなみ)
  - ② 基本業務の徹底(基本を見据え実践すると共に基本・応用・臨時等、適正な運用力を持つ)
  - ③ 報告・連絡・相談の徹底(権限や責任の所在を正確に捉え、判断力の向上を養う)
  - ④ リスク管理の徹底(変化の予測・感染症・介護ミス・災害・防犯・システム・信用)
  - ⑤ 法令遵守の徹底

(オ) 安定した経営基盤と充実したサービスの強化

パンフレットや広報誌を送付、または医療機関などへの訪問機会をつくり信頼関係の構築に努めました。日頃より、お客様のご状態の変化に留意して介護・看護の連携を特に密接に図り、早期発見、早期受診対応により、お客様が安心安楽に過ごしていただけるように努めました。看取り期の診断後、ご意向に応じて自然な流れで看取り期を施設でお過ごし頂ける様、協力病院と連携し対応を再開できる体制を構築しました。主治医からの病状説明～ご意向の確認、利用者ご本人と家族に寄り添い大切な時間となる様、慎重な対応に努めました。

(カ) お客様とご家族様との信頼関係の強化

お客様の権利・個性・主体性を尊重し、お客様の自己選択や自己決定に基づいて専門性の高い安全で最良のサービスが提供出来る様、ご意見の聞き取りや相談面接に力を入れると共に、各種の職員研修に取り組みました。ご家族様との報告・連絡・相談を密に行い、お客様及びご家族様の生活を尊重しながら相談対応に努め、ご家族様との良好な信頼関係を育みました。

(キ) 法人内特養との連携と相互補完の推進

同法人の特別養護老人ホーム和敬園と合同の会議・研修会を実施し、相互の情報交換を実施しました。

(ク) 組織マネジメントの精度を上げる

- ① 高齢者虐待や不適切なケアの発生を未然に防ぐ為、予測される原因を分析し組織的な取り組みを行ないました。
- ② 1月19日に第三者評価利用者調査を受審しました。
- ③ 職員のレベルアップとサービスの質の向上  
組織の一員としての責任と自覚を持ち、仕事を通じてやりがいを感じられる様、毎月施設内研修を行うと共に東社協や東京都のオンライン研修にも参加し、職員のレベルアップを図りました。

(ケ) 目標管理体制の徹底と支出の抑制

今年度も急な機械メンテナンスや修理等が多く発生しました。次年度は建物の増改築も視野に入れ、中長期計画を立てていきます。

(コ) 地域住民との積極的な交流

- ① 11月11日に災害応援協定に基づく合同訓練を松楓会で実施しました。町内会の方々のご参加と一般社団法人 西多摩減災防災ネットワークの方々の講義を受け交流を深めながら防災知識を養いました。
- ② コスモ・ゴールデンクラブは、感染予防対策で2020年1月から活動を休止しております。
- ③ ボランティアの導入ができませんでした。コロナ禍前に来園されていた方々は年齢を重ね活動をお辞めになっており次年度は新規開拓を目指したいと思っております。

(サ) 働く環境整備と職場風土の醸成

- ① 安全衛生委員会の活動を通じ、労務災害の防止のためのリスクアセスメントや予防対策の啓蒙と徹底、健診を2回実施し健康管理の推進を行ないました。また、メンタル面では、うつなどのメンタルヘルス不調を未然に防止するためにストレスチェックを8月に実施し、外部実施者に結果を集計・分析してもらい職場環境の状態を把握できるような仕組みを構築しました。
- ② 組織マネジメントの基本を守り、基本5原則の徹底を図り職場風土の醸成に努めました。

(シ) 積極的な広報活動と情報の開示

受身の経営から能動的経営に転換すべく、職員の意識改革と積極的な広報活動(ホームページの充実とリアルタイムの更新、パンフレット・広報誌の配布、西多摩特養ガイドにも参画等)を展開いたしました。その結果、施設利用希望者の応募を多数受信致しました。

## 5 利用者状況

(2024年3月31日現在 在籍の方)

在園者数	男性 28名	女性 57名	合計 85名
平均年齢	男性 80.82歳	女性 87.09歳	全体平均85.02歳
最高齢者	男性 96歳	女性 103歳	

### 入退所状況

入 所	退所(病院、他施設等へ移動)	退所(死亡)
30	10名	13名

### 介護度別在所者数

( 2024.3.31 現在 在籍の方 ) 平均介護度 3.60

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合 計
男	1	2	13	10	2	28
女	1	1	24	18	13	57
合計	2	3	37	28	15	85

## 年齢と認知度の対比

( 2024.3.31 現在 在籍の方 )

	自立	I	Ⅱa	Ⅱb	Ⅲa	Ⅲb	Ⅳ	M	合計
	正常	軽度		中度	重度				
～64 歳	0	0	0	0	2	0	0	0	2
65～69 歳	0	0	0	1	2	0	0	0	3
70～74 歳	0	0	0	3	2	0	0	0	5
75～79 歳	0	1	1	1	3	1	2	0	9
80～84 歳	1	0	2	8	6	0	1	0	18
85～89 歳	0	0	2	8	8	3	1	0	22
90～94 歳	0	1	0	2	8	2	2	0	15
95～99 歳	0	0	0	4	4	0	0	0	8
100 歳～	0	0	0	1	2	0	0	0	3
合計	1	2	5	28	37	6	6	0	85

## 6 利用者サービス

個々の身体状況に応じ、ご利用者様の主体性を尊重し生き甲斐のある自立した生活が送れるよう、サービスの充実を図り QOL の維持拡大、身辺自立を目ざし援助してまいりました。そして多職種協働により安心・安全なサービス提供に努めました。また、昨年度に引き続き今年度も新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う予防対策の必要に迫られる状況となりました。災害時の非常食や感染症対策としてのお食事提供方法につきましてもマニュアルを見直し、使い捨ての食器の在庫確保と合わせてワンプレート食器を新たに導入し適切な対応に努めました。次年度も引き続きの管理徹底を行ってまいります。

(ア) 食事サービス

### ① 実施給与栄養量

	エネルギー	蛋白質	脂質	塩分	Ca
給与栄養目標量	1626kcal	59.8g	45.1g	7.0g	669mg
実施給与栄養量	1631kcal	60.4g	46.0g	8.2g	623mg

### ② 年間一食平均食数

主食・・・ 常食 41名 粥ミックス 0名 粥食 30名  
 ソフト粥食 5名 経管栄養食 2名 ゼリー食 1名  
 副菜・・・ 常菜 28名 一口大カット 19名 刻み菜 29名  
 ソフト菜 7名 療養食 17名



- ③ 季節に見合ったお楽しみ行事食を月1回提供しました。
- ④ オプションのスペシャルメニューを3回(7月・8月・10月)実施。 延べ 207名の方が召し上がりました。
- ⑤ 嚥下困難な方には、切り方、盛り付け方の工夫等して、常食の献立と変わりのない様にする事で視覚的刺激に繋がるよう努めました。また、食欲不振の方には、少量でもエネルギーを確保しやすい栄養ゼリーの提供も行い、無理せずに必要な栄養量を確保できるように努めました。
- ⑥ 入所時、退院時に面談を行い、食事についての相談や説明を行いました。また、食事内容について検討が必要な方には、その都度対応して行きました。
- ⑦ 食事に関するアンケートを行い、利用者様の意向・希望を取り入れました。
- ⑧ 栄養アセスメントを実施し低栄養改善のための取り組みを致しました。

(イ) 入浴サービス ( 2024.3.31 現在 )

	介 助 浴	機 械 浴
1人一週あたりの回数	2	2
対 象 者 数	4	81

(ウ) 排泄サービス

自立	一部介助	全介助	*備考
16	32	37	一部介助:介助があればポータブルトイレ及びトイレで出来る 全介助:ご自分では出来ないので全て介助を要する

(エ) 医療衛生管理

- ① 慢性疾患をベースに抱える利用者様が多い中、施設内診療と主治医・協力医療機関との連携を強化し、異常の早期発見・早期治療を速やかに行っています。今年度もコロナクラスターが発生してしまいましたが、入院者は延べ51名(昨年比6名減)、そのうち長期加療の為退園された人数は9名となりました。また、嘱託医の専門外疾患については適宜、医療機関を受診し、早期治癒に努めました。必要に応じて眼科や皮膚科受診をされ、ご状態に悪化が見受けられない方については、新型コロナウイルス感染症予防を考慮し施設往診医や受診先の医師に電話連絡にて指示を仰ぎ、受診の延期や電話診療の対応にて感染リスクを減らせるように考慮いたしました。
- ② 体調の変化が見受けられる際には、早期に対応し入院治療を進めてきました。
- ③ 状態の悪化によって亡くなる方もおられ、年間入院者 延べ51名の内、11名の方が病院で亡くなられています。

- ④ 感染症予防、蔓延防止の為にチェック体制を強化し、施設内設備の消毒や消毒用アルコールの配備、感染症の動向を把握、時期的に流行しやすい感染症について、情報発信と予防対策の呼びかけ・啓蒙を行い利用者様・職員の健康管理を行い感染症の発生予防に努めました。

(オ) リハビリテーション

個別の機能訓練計画をもとに、残存機能の活用を勧め、ADL(日常生活動作)の向上を目指し理学・物理・マッサージ療法を実施。

個別機能訓練 7,668名 集団体操 4,534名

(2024.3.31までの実施延べ人数)

身体機能の低下の要因として、加齢による関節可動域の減少や変形、持病の悪化や心身の状態変化、入院治療時の静養生活による廃用症などが考えられるため、日々の利用者様の変化を見逃さずに把握し、医師の指示・助言の下、できるだけ効果的な機能訓練計画作りと実践に努めました。

また、近年は入院した際、急性期の治療が終了すると早期の退院が計画される傾向のため、退院時は入院先の病院との情報交換を基に早期の生活リハビリに努め、ご本人の負担のない範囲で生活の動きをサポートしました。

(カ) アクティビティ活動

- ① レクリエーション・行事においては、コロナ禍においては一同に会す行事については中止、もしくは規模を縮小していましたが、新型コロナウイルス感染症が5類に移行後は敬老式典など一同に会する催し物を再開、感染対策を図りながらも利用者様相互の親睦とコミュニケーションが図れる様働きかけを行い、延べ1,521名の参加が得られました。
- ② コロナ禍のため中止していた行事などの再開に注力、また、新型コロナウイルスのクラスターが発生したこともありご家族招待行事、懇談会については中止させていただきました。
- ③ オプション行事についてはコロナ禍のため講師を招いてのそば打ち実演会や外出する行事は中止。施設内で感染対策をしながらも楽しんで頂けるスペシャルランチ(3回・210名)などで「食」を楽しんで頂きました。また、爽涼喫茶(72名)、デザートバイキング(69名)など食とともに季節も感じられる行事も実施し楽しんで頂きました。

## 7 地域社会と連携

(ア) 地域高齢者を対象にした「コスモ・ゴールドンクラブ」の活動はコロナ禍のため行うことができませんでした

(イ) 11月11日に町内会との相互応援協定に基づく合同訓練を実施しました。

## 8 職員関係

### (ア) 安全衛生委員会

法人安全衛生方針・管理体制を基に、推進計画に沿って実施いたしました。

特に、働く環境のリスクマネジメント・コロナ禍でのメンタルヘルスケア全職員の心身の健康問題を発生させないよう努めました。

### (イ) 職員研修においては内部研修計画に沿って実施し、感染症対策を中心に身体拘束等、職員の資質向上に努めました。

## 9 関連事業

### (ア) 短期入所生活介護事業

お客様が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活が継続出来る様日常生活上の介護、および機能訓練を行いました。サービスを提供することによって、心身の機能維持ならびにお客様とご家族様の身体的及び精神的負担の軽減が図れるよう努めました。また、在宅介護の中での生活リズムとしての定期的な利用をご希望の方への対応や、緊急な受け入れ要請、入所申請に迷われている方の体験等々、ニーズに合わせて柔軟に受け入れる事ができました。

\* 事業実績 利用延べ日数 526日 利用実人数 14名

月平均利用人数 1.2名 月平均延べ利用日数 約43.8日